

学期	考查	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	時数
1 学 期	中 間 考 査	1 直流回路 ①電気回路の電流・電圧・抵抗 ②オームの法則 ③抵抗の直列接続 ④抵抗の並列接続 ⑤抵抗の直並列接続	(知)	・電流、電圧、抵抗などの意味を理解している。 ・オームの法則を理解し計算できる。 ・直流回路において、回路における法則や公式を理解し、計算することができる。	○	○		○	○	12
		(思)	・電流、電圧、抵抗、オームの法則などを理解し、直流回路の課題解決に応用できる。 ・直流電気回路の合成抵抗、各部電圧・電流の計算ができ、電気回路の考察ができる。	○	○		○	○		
		(態)	・電気の基礎になる法則や受動素子に関心があり、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・抵抗の接続方法と各部の計算方法に関心があり、各種の法則を意欲的に学習した。	○	○		○	○		
1 学 期	期 末 考 査	2 電力と熱エネルギー ①電力と電力量 ②ジュール熱	(知)	・電力、電力量、ジュール熱などを理解し、これらを計算によって求めることができる。 ・直列回路の応用回路について正しく理解し、計算によって求めることができる。	○	○		○	○	12
		(思)	・電力、電力量、ジュール熱などを理解し、電熱器、ヒューズなどへの利用を考察できる。 ・電気回路における各種法則を理解し、回路網の解析に応用することができる。	○	○		○	○		
		(態)	・電流が熱を発生する事象に関心を持ち、その影響に関し意欲的に学習に取り組んでいる。 ・電気回路における各種法則に関心があり、その活用について意欲的に学習している。	○	○		○	○		

2 学 期	中 間 考 査	4 コンデンサとコイル ①コンデンサ ②コンデンサの接続 ③誘電体内のエネルギー ④インダクタンス ⑤トランス	(知)	・ コンデンサの原理と用途、接続法と性質を理解し、合成静電容量などを計算することができる。 ・ コイルやトランスを理解し計算できる。 ・ 交流回路を理解し計算することができる。	○	○		○	○	16
		5 交流回路の基礎 ①正弦波交流の性質 ②交流回路の取り扱い方	(思)	・ コンデンサやコイルなど受動素子の原理と用途を理解し、電気回路の課題解決に応用できる。 ・ 交流回路の基本法則を理解し、交流回路における課題解決に応用できる。	○	○		○	○	
			(態)	・ コンデンサやコイルなどの受動素子およびその現象に関心を持ち、熱心に取り組んでいる。 ・ 交流の現象および交流回路に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	○	○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	6 電子回路 ①増幅回路 ②発信回路	(知)	・ トランジスタを用いた電子回路に必要な電流や抵抗の値を計算で求めることができる。	○	○		○	○	16
			(思)	・ 電子回路を用いた作品について思案することができる。	○	○		○	○	
			(態)	・ 目標を達成するために、回路設計することができる。	○	○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	7 低圧屋内配線 ①電線の許容電流 ②配線用遮断器 ③過電流遮断器	(知)	・ 安全係数を理解して電気理論を用いた計算が正確に行える。	○	○		○	○	22
			(思)	・ 各種機器の動作原理を理解し、条件に合わせた機器の用途を考察できる。	○	○		○	○	
			(態)	・ 屋内配線に関心があり、配線用遮断器や過電流遮断器を用いた回路について熱心に学習している。	○	○		○	○	
									合計	78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	工業・システム情報	科目：	工業情報数理	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	007-901 工業情報数理 新訂版（実教）		副教材				

年間指導目標：
実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の各分野における情報技術の進展への対応や事象の数理処理に必要な資質・能力を育成することを目指す。特に、情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学ぶ力の育成を目指す。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決することができる。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	1. 産業社会と情報技術 ①情報と情報社会 ②情報システムとデータの活用 ③情報社会の権利とモラル ④セキュリティ管理	(知)	・ 情報化の進展が社会に及ぼす影響を踏まえて理解できているか。	○	○				8
			(思)	・ 情報の管理や発信に着目して、産業社会と情報技術に関する課題を見いだすとともに解決策を考えられているか。	○	○				
			(態)	・ 情報及び情報手段の活用に主体的に取り組んでいるか。	○	○				
1 学期	期 末 考 査	2. ソフトウェアやサービスの利用 ①コンピュータの基本操作 ②ソフトウェアの基礎 ③アプリケーションソフトウェア 4. Pythonによるプログラミング ①Pythonの特徴 ②基本的なプログラム ③選択処理 ④繰返し処理	(知)	・ コンピュータシステムについて関連する技術を身に付けているか。	○	○				10
			(思)	・ コンピュータシステムに関する課題を見いだすとともに解決策を考えられているか。	○	○				
			(態)	・ コンピュータシステムについて自ら学び、情報技術の活用に主体的に取り組んでいるか。	○	○				

2 学 期	中 間 考 査	4. Pythonによるプログラミング ⑤データ構造 ⑥関数	(知)	・コンピュータシステムについて関連する技術を身に付けているか。	○	○				8
		3. プログラミングの基礎 ①プログラム言語 ②プログラムの作り方 ③流れ図とアルゴリズム	(思)	・コンピュータシステムに関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができているか。	○	○				
		7. ネットワーク ①ネットワークの構成	(態)	・コンピュータシステムについて自ら学び、情報技術の活用に主体的に取り組めているか。	○	○				
2 学 期	期 末 考 査	7. ネットワーク ②ネットワークの通信技術 9. 情報デザインを活用した問題の発見・解決 ①問題の発見 ②情報デザイン ③プレゼンテーションと問題解決の評価	(知)	・情報通信ネットワークにおいて使用されている通信ケーブル、ハブなどの通信機器、配線形態、各種の伝送制御手順、プロトコルなどの理解ができているか。 ・問題解決のための手順と方法を理解しているか。 ・データの内部表現及び論理代数、論理回路、中央処理装置、周辺装置などの理解ができているか。	○	○				8
		③プレゼンテーションと問題解決の評価	(思)	・問題解決のための手順と方法に基づき、生活の中の問題を発見できているか。加えて、解決し、評価し、新たな問題解決につなげることができているか。	○	○				
		6. デジタル化とハードウェア ①数値・文字の表し方 ②論理回路の基礎	(態)	・情報デザインやプレゼンテーションを通して、日常生活にある問題をこれまで学んだ情報技術等を活かして解決しようと主体的に取り組めているか。	○	○				
3 学 期	学 年 末 考 査	6. デジタル化とハードウェア ③情報のデジタル化 ④処理装置の構成と動作	(知)	・データの内部表現及び論理代数、論理回路、中央処理装置、周辺装置などの理解ができているか。 ・数値処理をモデル化してシミュレーションを行うアルゴリズムを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。 ・資格試験に出題されるアルゴリズムを理解できているか。	○	○				14
		10. 数値処理 ①単位と数値処理 ②実験と数値処理 ③モデル化とシミュレーション	(思)	・モデル化に着目して、プログラミングと工業に関する事象の数値処理に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善できているか。 ・資格試験に合格するために試行錯誤して学習することができたか。	○	○				
		全国工業校長協会主催3級を選択して受験する	(態)	・プログラミングと工業に関する事象の数値処理について自ら学び、情報技術の活用に主体的に取り組んでいるか。 ・資格試験に合格するために主体的に学習することができたか。	○	○				
合計										48

教科・分野：	産業・システム情報	科目：	産業技術基礎	単位数：	3	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	なし	副教材	自校作成資料				

産業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、各分野における技術への興味・関心を高め、産業の意義や役割を理解させるとともに、産業に関する広い視野を養い、産業の発展を図る意欲的な態度を育てる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	産業技術について産業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解している。産業技術に関連する技術を身に付けている。	産業技術に関する課題を発見し、産業に携わる者として科学的な根拠に基づき産業技術の進展に対応し解決できる。	産業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、産業の発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

										配当 時数
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学 期	中 間 考 査	第1 ローテーション	(知)	・実習室および実習の進め方を理解している。 ・LEGO及びアルゴリズムの基本が理解できている。		○	○	○	○	18
		オリエンテーション		・計測機器、電圧・電流などの基本機能が使用できる。 ・OFFICEの基本が理解できている。						
		①LEGO ②電気基礎 ③OFFICE	(思)	・各実習テーマの基本的な内容を理解し、その応用を考察することができる。 ・各実習で気づいたことや解決策などを考察しレポートに記述することができる。		○	○	○	○	
			(態)	・各実習に欠席や遅刻・早退することなく参加し、積極的に課題に取り組んでいる。 ・実習中は安全に考慮した行動を意識している。 ・レポートを期限内に提出している。		○	○	○	○	

1 学 期	期 末 考 査	第1ローテーション (続き)	(知)	・実習室および実習の進め方を理解している。 ・LEGO及びアルゴリズムの基本が理解できている。 ・計測機器、電圧・電流などの基本機能が使用できる。 ・OFFICEの基本が理解できている。		○	○	○	○	18
		①LEGO ②電気基礎 ③OFFICE	(思)	・各実習テーマの基本的な内容を理解し、その応用を考察することができる。 ・各実習で気づいたことや解決策などを考察しレポートに記述することができる。		○	○	○	○	
			(態)	・各実習に欠席や遅刻・早退することなく参加し、積極的に課題に取り組んでいる。 ・実習中は安全に考慮した行動を意識している。 ・レポートを期限内に提出している。		○	○	○	○	
2 学 期	中 間 考 査	第2ローテーション	(知)	・実習室および実習の進め方を理解している。 ・WEB開発の基礎が理解できている。 ・Arduinoの基礎が理解できる。 ・プログラミングのアルゴリズムが理解できる。		○	○	○	○	24
		①WEB開発基礎 ②Arduino ③アルゴリズム	(思)	・各実習テーマの基本的な内容を理解し、その応用を考察することができる。 ・各実習で気づいたことや解決策などを考察しレポートに記述することができる。		○	○	○	○	
			(態)	・各実習に欠席や遅刻・早退することなく参加し、積極的に課題に取り組んでいる。 ・実習中は安全に考慮した行動を意識している。 ・レポートを期限内に提出している。		○	○	○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第2ローテーション (続き)	(知)	・実習室および実習の進め方を理解している。 ・WEB開発の基礎が理解できている。 ・Arduinoの基礎が理解できる。 ・プログラミングのアルゴリズムが理解できる。 ・CADを用いて設計ができる。		○	○	○	○	24
		①WEB開発基礎 ②Arduino ③アルゴリズム	(思)	・各実習テーマの基本的な内容を理解し、その応用を考察することができる。 ・各実習で気づいたことや解決策などを考察しレポートに記述することができる。		○	○	○	○	
		第3ローテーション ①WEB開発基礎 ②CAD設計 ③プレゼンテーション	(態)	・各実習に欠席や遅刻・早退することなく参加し、積極的に課題に取り組んでいる。 ・実習中は安全に考慮した行動を意識している。 ・レポートを期限内に提出している。		○	○	○	○	

3 学 期	学 年 末 考 査	第3ローテーション (続き)								33	
		②CAD設計	(知)	・各実習室および実習の進め方を理解している。 ・CADを用いて設計ができる。 ・パワーポイントを用いて、わかりやすい発表をすることができる。 ・リハーサルや発表までの準備を計画的に実施することができる。		○	○	○	○		
		チーム開発・発表									
		①発表準備 ②リハーサル ③発表 ④反省・後片付け	(思)	・各実習テーマの基本的な内容を理解し、その応用を考察することができる。 ・各実習で気づいたことや解決策などを考察しレポートに記述することができる。 ・発表時の役割分担や段取りおよび発表方法がメンバの中で工夫されている。 ・イレギュラーな事態への対応が、メンバの中で考察されている。		○	○	○	○		
			(態)	・各実習に欠席や遅刻・早退することなく参加し、積極的に課題に取り組んでいる。 ・実習中は安全に考慮した行動を意識している。 ・レポートを期限内に提出している。 ・本番までの発表練習を積極的に行い、リハーサルにも真摯に取り組んでいる。 ・発表後の清掃、後片付けなども協力し積極的に行っている。		○	○	○	○		
合計										117	

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・デザイン・クラフト・システム情報	科目：	企業会計Ⅰ	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	新簿記（実教出版）	副教材	反復式簿記問題集全商3級（実教出版）				

年間指導目標：
商業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・簿記の定義、目的を理解し、知識を身に付けている。 ・簿記で学習する帳簿へ記帳方法、決算書等の作成方法を身に付けている。	・簿記の学習について、目的を理解し、企業の経営活動に関連づけて思考・判断してきちんと説明できる。	・簿記の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

		評価方法								
		a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度				
							配当 時数			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学期	中 間 考 査	第1章 簿記の基礎	(知)	・簿記の基礎的な知識を身に付けている。	○		○			12
		第2章 資産・負債・純資産 と貸借対照表		・資産・負債・純資産・収益・費用の種類、貸借対照 表、損益計算書の構造や役割を理解している。						
		第3章 収益・費用と損益計 算書								
			(思)	・簿記を学ぶことの意義と必要性を考えることができる。 ・資産・負債・純資産・収益・費用が何かを思考し、 それぞれの区分を適切に判断できる。	○		○			
			(態)	・簿記の学習に興味を示し、学習しようとする態度がみ られる。 ・資産・負債・純資産・収益・費用、貸借対照表、損 益計算書について関心を示し、把握しようとする態 度がみられる。				○	○	
1 学期	期 末 考 査	第4章 取引と勘定	(知)	・簿記上の取引の意味と仕訳の手順を理解している。	○		○			12
		第5章 仕訳と転記		・仕訳帳と総勘定元帳の意味と記帳法を理解している。						
		第6章 仕訳帳と総勘定元帳		・試算表の意味と作成法を理解している。						
		第7章 試算表	(思)	・取引の分解と勘定記入、転記について適切に判断 し、正確におこなえる。 ・仕訳帳・総勘定元帳への記帳を適切に判断し、正確 におこなえる。 ・試算表の種類について思考し、適切に作成できる。	○		○			
			(態)	・貸借平均の原理について関心を示し、把握しようとする態度 がみられる。 ・仕訳と転記に自ら進んで取り組もうとしている。 ・記録を正確に行うことの大事さに関心を示している。 ・試算表がなぜ必要か考え、その役割について関心を持ち、把 握するような態度を示している。				○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第10章 現金・預金などの取引	(知)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形に関する基本的な内容とその記帳法を理解して基礎的な技術を身に付けている。 ・3分法による記帳法や仕入帳・売上帳、商品有高帳に関する知識とその記帳法を理解している。	○		○			16	
		第11章 商品売買の取引		(思)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	○		○			
		第12章 掛け取引			(態)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。					○
第13章 手形の取引											
2 学 期	期 末 考 査	第14章 その他の債権・債務の取引	(知)	・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。	○		○			16	
		第15章 固定資産の取引		(思)	・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等の記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	○		○			
		第16章 個人企業の資本の取引			(態)	・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。					○
第17章 販売費と一般管理費、税金の取引											
3 学 期	学 年 末 考 査	第18章 決算整理（その1）	(知)	・決算手続き、8桁精算表の意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・貸借対照表、損益計算書の作成方法を身に付けている。	○		○			22	
		第19章 8桁精算表		(思)	・なぜ決算整理を行うのか、なぜこのように整理仕訳を行うのかなどについて思考し、財務諸表を活用して企業の状況について判断し、決算結果を財務諸表に明瞭に表現できる能力を身に付けている。	○		○			
		第20章 帳簿決算			(態)	・決算整理が企業の経営成績にどのような影響を与えるのかに関心をもち、自ら考える態度を示している。 ・貸借対照表、損益計算書からビジネスの諸活動を把握しようとしている。					○
									合計	78	